

下

右同斷 貳拾八俵

右同斷 貳拾三俵

右同斷 貳拾四俵を三拾俵迄

右之外、檜炭、姥目炭之儀は、其品に應じ賣々仕候。○上總、房州、駿州、遠州、上州、川越、野、栃木、常州、野州等炭、直段略、右御尋ニ付、此段奉申上候、以上、

文久元酉年三月

川邊竹木炭薪問屋行事
本湊町家持丸屋

長左衛門○以下略

炭團

〔易林本節用集太器財〕炭團炭香火

〔書言字考節用集七器財〕炭團本名香餅又云炭餅

〔本朝食鑑一火〕炭火


集解○中略有炭團者、用消炭細末、以米泔濃粘者、煉作團子、而晒乾、此爲香爐之炭、其大者如繡毬子大、

其小者如枇杷核、或用池田炭末亦造之、

〔守貞漫稿六生業〕炭團賣

三都トモニ冬專ラ販之、炭粉ニ泥ヲ交ヘ團シ、日ニ曝シ乾シテ代炭火用フ、大小丸アリ、一錢ヨリ

四文ニ至ル、

近年池田ノ切炭形ニ摸造シ、或ハ如此形ニモ製ス、賈人定扮ナク、炭賣ト同籠ヲ用テ荷ヒ巡ル、

〔調度口傳〕一炭團箱之事

長サ五寸、巾三寸、高サ一寸なり、中に仕切を入、炭どん三十入るやうに去たる、たどんの製作品々

有、クルミのから松かさを黒焼にして、ふのりにてかためたるをよしとす、

〔毛吹草三〕山城 炭團

〔國花萬葉記六攝津〕諸職商人買物所付

たどん うなぎ谷ノ西